

奥出雲町消防出初式 防災への気持ち新たに

奥出雲町消防出初式が1月12日、町民体育館で行われ、新入団員30人を含む458人が出動し、防災の意識を新たにしました。



村尾団長を先頭に分列行進を披露

団行事では辞令交付が行われ、村尾紀代之さんが新たに奥出雲町消防団団長に任命されました。その後、階級異動や新入団員に辞令が交付されました。

式典では各種表彰の披露のほか、退団者に感謝状が贈呈されました。退団者を代表し、前奥出雲町消防団団長の安部正教さんに勝田町長から感謝状が手渡されました。

式典終了後は、役場仁多庁舎前で団員による分列行進が行われ、ラッパ隊と女性消防団員の太鼓にあわせ、力強い行進を町民の皆さんに披露しました。行進後に斐伊川護岸道路に移動し、無火災を祈った一斉放水が行われました。

なお、今年の7月に浜田市金城町で開催される、第63回島根県消防操法大会には、ポンプ車の部に八川分団、小型ポンプの部に三成分団がそれぞれ出場することが決定しています。

安部正教団長が退団

安部前団長は、昭和48年5月に旧横田町消防団に入団以来、45年8ヶ月にわたり本町の消防団活動の発展に貢献されました。

平成19年より奥出雲町消防団団長を11年9ヶ月、兼ねて島根県消防協会副会長の要職を2年間務められ、在任中は団員を統率し、町民の安全と生命財産保護のため尽力されたほか、全国消防操法大会や島根県操法大会において纏（まと）を獲得するなど、消防精神の高揚と技

第56回全国中学校スキー大会 出場選手5人を激励！！



▲左から石原凜さん、景山和葉さん、石原大雅さん、景山慎平さん、石原悠太さん

1月30日、第56回全国中学校スキー大会に出場する選手の激励式が役場仁多庁舎で行われました。この大会には、クロスカントリーの部に石原悠太さん（仁多中3年）、アルペンの部に景山慎平さん（横田中3年）、石原大雅さん（横田中2年）、景山和葉さん（横田中1年）、石原凜さん（横田中1年）が出場されます。

勝田町長から「体調管理に万全を尽くし、これまで鍛えた力・技・精神力で頂点を目指してください」とエールが送られ、それぞれの選手が大会に向けた抱負を語りました。

2月4日から7日にかけて新潟県で開催された大会では、各選手が全国の強豪選手を相手にベストを尽くされました。



▲安部前団長

術の錬磨に精励され、消防団の発展に寄与されました。これまでの御功労に感謝いたします。

平成最後の操業 日刀保たたらで火入れ式

公益財団法人日本美術刀剣保存協会が運営する日刀保たたらで、1月23日、火入れ式が行われ、日本刀の原料となる玉鋼を生産するたたら操業が始まりました。



初種を入れる木原村下（手前）と渡部村下

火入れ式では関係者が操業の安全を祈願した後、技師長の村下を務める木原明さんと渡部勝彦さんが「初種」と呼ばれる砂鉄を炉に投入しました。そこから村下と村下養成員の計14人が30分おきに砂鉄と木炭を交互に入れる作業を3昼夜続け、26日の早朝に玉鋼を含む鋳を取り出す作業が行われました。

木原さんは「平成最後という一つの区切りに良いものを作りたい。任務を全うするため、心を込めて作業に取り組みたい」と決意を新たに炎が上がる炉を真剣な表情で見つめました。

戦後にたたら操業は一度途絶えましたが、日本美術刀剣保存協会によって1977年に再開され、今年で42年目を迎えます。約4トンの粘土を使って炉を築き、3昼夜で砂鉄10ト、木炭12トを使用し、3トの鋳を取り出す作業を2月9日までに3回行われました。この操業で生産された玉鋼は、全国の刀匠に提供されます。

激しい攻防戦！ 小学生スノーパーホッケー 交流大会

町民体育館で2月2日、第23回小学生スノーパーホッケー交流大会が開催され、町内の小学校から男子10チームと女子9チームの19チームが参加しました。

予選リーグから白熱した試合が繰り広げられ、会場にはチームを応援する声飛び交いました。決勝トーナメントには熱戦を勝ち抜いた男女各4チームが出場し、男子は馬木っ子ボーイズ（馬木小）、女子はYKK（横田小）が優勝しました。



▲男子決勝戦



▲女子決勝戦

